道路・農業基盤・公園整備に力点

63年度施政方針

3月定例町議会の冒頭で、佐瀬町長は昭和63年度に向けて、総合交通体系の整備、町の特性を活かした産業の振興、21世紀へ向けた快適な居住環境の整備、教育環境の整備の4点を骨子とした施政方針演説を行いました。

63年度予算編成の背景

最近のわが国の経済状況は、円高ドル安という為替レートが続いている中で、貿易摩擦の外圧等を受け、外需依存型から内需主導型へと経済パターンの転換が強く望まれており、経済の安定を模索しながら徐々にではあるがその方向へと進み、先行き不透明ながらも、やや安定を保っているのが現状です。

そのような背景の中で千葉県に目を転じると、その発展ぶりは目覚ましいものがあり、幕張メッセを中心とした新産業三角構想の推進、さらに五百万県民の長年の夢であり悲願であった東京湾横断道路の着手、成田空港の完全空港化への着工と、本県の発展を支える房総新時代の出発にふさわしいビックプロジェクトが次々と動きだし、いまだかつてない飛躍の辰年にふさわしい重要な年となってきました。

このような国、県の情勢の中で、町も来たるべき21世紀を展望した新しい基本構想を策定し、この構想の実現へ向けて諸施策の実現を目指しているところです。

建設事業費などが大幅な伸び

昭和63年度の予算編成にあたり、このような諸情勢を踏まえて諸施策・事業の一層の推進を図るべく、歳入歳出予算総額二十九億六千四百万円という通年型予算を編成しました。

これは、前年度に比較して三億六千万円の増、実に一三・八%の伸び率を示し、国の四・八%あるいは県の八・六%という数字をはるかに超える大型予算となりました。

この三億六千万円の増額分を分折してみると、建設事業費の伸びが二億百二十六万三千円で五十六%を占めています。また、財政分折的には補助金の扱いとなっているものの、実質的には事業費的性格の農林水産業費を合わせると、実に増額予算の八十%近くが投資的な事業に振り向けられています。

道路網の整備

次に63年度の主な事業をあげると、まず道路網の整備に最重点を置きました。これは、大総地域に複合開発として進めてきた工業団地とゴルフ場計画の着工の年であり、また、これと時を同じくして総事業費六百億円という巨費が投入される、東金市山田から横芝町の遠山に至る16kmの東金有料道路延伸計画が、昭和71年の供用開始を目指し、本年5月から説明会等が開始されることになりました。こうした意味合いから63年度は新生横芝町の誕生以来、まさに記念すべき年となり、これを機に町内道路網の整備を強力に推し進めることが急務であると考えます。

このようなことから、63年度の重点施策の第1点として実施計画の中にうたわれている、町民の足・総合交通体系の整備を取り上げ、土木費に四億四千二百八十八万一千円を計上しました。これは前年度比で一七・五%、六千六百十二万一千円の増となっています。

この中で主な事業としては、昭和56年以来7年有余の歳月と八億七千五百万円という巨費を投じてきた町道坂田・遠山線の改良工事に二千二百万円を計上しました。この事業も本年9月には竣工の見通しで63年度をもって終了しようとしています。

また、町道新青・東線の改良工事にも五千五百万円を計上しました。さらに横芝小の下側から上堺方面にかけて整備した歩道を本年度は第2次計画として延長するため、交通安全施設整備として国の補助を受けて三千三百万円を計上しました。

以上の3本が国・県の補助を受けて行う道路関係事業の主だったものですが、この他に町単独事業として大幅な予